

「貨物鉄道モーダルシフトPT」始動！

貨物鉄道を取り巻く環境について意見交換

JR連合は、11月15日、議員会館で貨物鉄道モーダルシフトプロジェクト（以下PT）の第1回会合を開催した。

会議には、座長に榛葉賀津也参議院議員（静岡県）、アドバイザーに竹内健蔵東京女子大教授にそれぞれ就任いただき、貨物鉄産労の代表者、JR連合役員らが出席し、①PTの役割と目的②貨物鉄道を取り巻く環境等について、活発な意見交換を行った。参加委員からは、「鉄道貨物の特殊的要因であるフォワーダー（運送事業者）との現状把握の必要性」や「価格競争力や営業力の強化」を訴える意見が出された。

その後、国土交通省鉄道局から、JR貨物会社の経営支援策と題して、国鉄改革の考え方、鉄道貨物への行政の関わり、公的支援の状況等について説明を受けた。参加委員からは、「分割スキームの経緯」や「貨物への今後の支援のあり方」「モーダルシフト促進に向けての対応」について質問し、活発な意見交換が行われた。



JR貨物は会社発足以降、各種支援策を得て、社会的使命を果たしてきた。一方で、会社を取り巻く環境は、発足当初に比べて厳しさを増し、JR旅客会社と異なる全国一律のネットワークや旅客会社から線路を借りて業務を行う特殊性、また各種支援策についても、税制をはじめとする都度の政治判断等に左右されるなど将来リスクを包含している。従って、総合交通体系に基づいた政策誘導のあり方、政府行政の関与のあり方を幅広く議論し、実現可能性をおいた提言を行うことを目的としている。

今後のPTの方向性については、労働組合員の視点に立った政策立案とし、鉄道貨物に限らず様々な貨物輸送モードの現状分析や海外物流の動静も比較検討しながら、JR貨物が選択すべき企業行動のあり方といったミクロ的視点、政策誘導のあり方などのマクロ的視点の両面からの議論を展開していく。